

## 158 チョウゲンボウ



指 定 市天然記念物 昭和53年 2月1日  
 所在地 伴野・鳴瀬  
 所有者 ー



分類上、チョウゲンボウはハヤブサ科に属する猛禽類<sup>もうきん</sup>の仲間である。

夏は山地、冬は平地に漂行し、川などに面した崖の穴の奥に産卵して繁殖する。餌はねずみ・小鳥・昆虫などで、北は北海道から南は九州まで広く分布しているが、最近棲息数が非常に減少してきたことから、我が国では天然記念物保護鳥として、また昭和48年(1973)には国際保護鳥にも指定されている。

鳩よりひとまわり大きく、嘴<sup>くちばし</sup>13~15mm、翼長221~267mm、尾長157~187mmで、鳴き声はキイキイと鋭い声を立てる。英名は、JAPANESE KESTREL (日本のまぐそたか) とよばれている。

伴野倉瀬(金竜寺崖)は相浜層に属する高さ約30mの大断崖、岩尾城跡は湯川層の約15m断崖で、いずれにもチョウゲンボウの巣穴が数個確認され生息している。